



薬局・薬剤師のための  
スキルアップ&マネジメント情報誌

薬剤師のための情報サイト[DIオンライン]  
<http://di.nikkeibp.co.jp/>

日経DIモバイル  
スマートフォン版

**NEW** 日経DIデジタル

いずれもこちらから  
<https://di-s.nikkeibp.co.jp/>



DIファイル  
添付文書の改訂情報  
バクタ/フラジール

Premium Edition

薬理のコトバ  
睡眠と薬

2012年9月10日発行(毎月10日発行)通巻179号

# 薬剤師を変える バイタルサイン

Report

ついに1000品目を突破  
トクホのおさらい

日経DIクイズ

心房細動に  
PPIが  
追加された  
理由



2012

9



ミスゼロ子ではPTPシートのバーコードを読み取ることが可能

ユーザー訪問 **薬局アポック三芳店** (埼玉県入間郡)

# “安全・安心の医療サービス”の実現を目指し、ピッキングシステム「ミスゼロ子」を採用

首都圏で調剤薬局を展開する(株)日本アポック(本部:埼玉県川越市)は「安全・安心の医療サービスを地域に提供すること」を理念として掲げている。その実現のために、調剤ミスを防止するバーコードピッキングシステム「ミスゼロ子」を採用した。

薬局アポック三芳店(埼玉県入間郡)は、日本アポックが首都圏(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県)で展開する調剤薬局の1つ。隣接するポプラ薬局三芳店も同社によって運営されている。

住宅に囲まれた両薬局の真向かいに総合病院があり、1ヵ月約3500枚(2薬局合計)を応需する処方せんのほとんどは、この病院から発行されている。2つの薬局で薬局長(管理薬剤師)を務める白石卓也氏によると、全処方せんのうち約75%が整形外科と内科で占められるという。また、在宅・施設訪問も積極的に実施している。備蓄医薬品は、約1350品目。スタッフ(2薬局合計)は、薬剤師10人(うちパート3人)、事務員5人(うちパート4人)の構成になっている。

「整形外科を受診されている高齢者の方が多いので、特に体の動きや痛みの程度を観察したり、お聞きしたりして、QOLの向上に配慮した服薬指導を心がけています。当社では年2回の全体研修会があり、様々なテーマで発表やディスカッションを重ねていますが、そうして学んだことを患者さんへの服薬指導につなげていきたいと考えています」と白石氏は語る。

## RSSコード対応・棚番登録・シート表示など機能面を評価し、16店で「ミスゼロ子」を導入

日本アポックが掲げる理念は「おもてなしの心を持って、安全・安心の医療サービスを地域に提供し、豊かで健康的な日常生活を支援する」こと。その“安全・安心の医療サービス”を実現する手段の1つとして、調剤ミスを防止するバーコードピッキングシステム「ミスゼロ子」を採用。現在、同社運営の全店舗中16店に導入している。

調剤ミスのほとんどがヒューマンエラーに起因しており、「処方せんの読み間違い」「医薬品の取り違い」「思い込み」といった不注意による単純ミスが原因であることが多い。この点に着目した(株)

クカメディカルが独自開発したのが、ミスゼロ子。これはレセプトコンピュータと連動するシステムで、薬品カセットに貼り付けたバーコードシール(JANコード)をハンディ端末で読み取って、調剤ミスを防ぐシステムである。

## 大きなヒューマンエラーは、ほぼゼロになる

ミスゼロ子を活用した場合の調剤手順は、まずレセコンに処方内容を入力。次にハンディ端末に受付番号を入力するか、患者名から選択し、患者データを読み出す。処方せんに基づいて錠剤ケースを選択し、ケースに貼られたバーコードをハンディ端末でスキャンすると、レセコンから送られる処方せん情報とバーコードの情報が照合される。正しい場合はハンディ端末画面に薬品名・数量が表示されるが、誤った場合はエラー表示が出る。画面で商品名・数量を確認し、ケースから薬品を取り出す、というのが一連の流れだ。JANコードシールはクカメディカルが提供する。

「ミスゼロ子を使えば医薬品取り違いや規格違いという大きなヒューマンエラーをほぼゼロにすることができます。また、数量間違いは起こりやすいミスですが、シート表示機能により、ウィークリーシートと10錠シートの区別をして数量間違いを防いでくれます。導入前後を比較すると、鑑査時にミスを発見する割合が確実に減少したと感じます。また、予製剤のチェックができるのも便利です」と白石氏は導入のメリットを指摘する。

ミスゼロ子のピッキングシステムでは、ハンディ端末のエラー表示により、ピッキング時に処方せんと照合が促されるので、ピッキングミスだけでなく、レセコン入力ミスがあった場合も、この時点で発見できる。同薬局で実習を受けた薬学生も「調剤漏れ、規格間違い、別物調剤などの大きなミスを防げるので、精神的な負担が大きく軽減される」と話していたという。

厚生労働省は医薬品の取り違い事故の防止などの観点から、内用薬および外用薬(ともに生物由来製品を除く)の調剤包装単位(錠剤やカプセル剤であればPTPシートやバラ包装の瓶、注射剤であればアンプルやバイアルなど)への新バーコード(RSSコード)表示を製薬企業に求めていたが、今年6月、その実施時期を明示する通達を出した。これにより、2015年7月以降に出荷されるものについては調剤包装単位でバーコードが表示されることになる。ミスゼロ子で直接、PTPシートなどのバーコードを読み取る方法が一般化されれば、さらにきめ細かくミスを防止できると考えられる。



バーコードピッキングシステム「ミスゼロ子」によって、大きな調剤ミスを防ぐことができる



日本アポックが運営する薬局アポック三芳店とポプラ薬局三芳店